

2021年度 自己評価シート 近江聖書学園 水口幼稚園(園主題)共に生き 共に育つ

本年度教育目標(年主題) すきがいっぱい		名前			担当														
評価項目	目標及び実績 本年度重点的に取り組むことが必要と思われること	方策(具体的な取り組み方)	取り組みに対する自己評価(5段階)			総合評価 (5段階)	考察・今後の課題												
			第1保育期	第2保育期	第3保育期														
教育目標教育課程 (方針) 子どもとの関わり	自由にのびやかに	・子どもたちが自己を発揮できるように、安心・信頼できる人的環境作りをする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.6	・まずは子どもたちが安心して園生活を送れるよう、一人ひとりと丁寧に 関わることができた。子どもの育ちや個性、時期に合わせて、関わり方や 距離感も考えて保育することができた。 ・遊びの中で、一人ひとりがどこに面白さを感じているのかを見極めて環 境を整えた。繰り返し遊ぶ、長期間同じ遊びに夢中になる子どもの姿が あった。 ・それぞれの学年やクラスカラーを出した保育を年間通して行うことが できた。2クラスある学年は、保育のねらい等と共有しながら、目の前のこ どもたちにとって今必要なことを考えた。時には別の活動をしたり、同じ活 動でも違う方法でやってみたりし、良い意味での差も生まれ保育者の新 たな発見や気づきにもつながった。 ・今年度もコロナ禍での保育となり、年長を中心に園外での保育を意 識して行ってきた。子どもたちがどうすれば園外でも充実できるか、何を 持っていけばよいのか、何をすればよいのかを考える時間が増えた。子 どもたちだけで自発的に考えたり、活動する姿が秋頃から急激に高まった ように感じた。園外での活動に多くの可能性を感じる一年となったので、 今後の保育に生かしていきたい。
	一人ひとりを大切に(自己肯定感を育む)	・一人ひとりの思いに共感したり、認めたりし、自己肯定感が高まるようにする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.7	
	体験を通して学ぶ	・子どもがやってみようと思うこと・興味があることを深めていけるように保育者は柔軟に対応する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.2	
	「根っこ」を育てる	・目に見えないものを信じ、大切に育てる。一人ひとりにとって一番良いことは何かをしっかりと考えて保育する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.3	
	子どもたちにとってその都度必要なことを考えて実行する。	・一人ひとりと充分に関わり、その子に合った関わりやポートを考え、実行する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.2	
	子ども理解を深めたいうえで、子どもと接する。	・子ども自身で考えたり、子どもたち同士で話し合い物事を進めていけるよう、保育者は適切な関わりと距離感を心がける。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.3	
	広い視野を持って、子どもと関わる。	・後ろにも目のある保育者を目指す。一人で全園児を見るぐらいの視野を常に持って保育をする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.1	
	自発活動の充実	・保育者自身も好きな遊びを見つけ、子どもたちと共に深める。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.9	
	子どもの興味、発達過程、年齢等に合わせたカリキュラムを組み、活動を展開する。	・一つひとつの活動が各年齢や今の子どもたちに合ったものなのかをよく考える。活動に対しての工夫や見直しを定期的に行う。カリキュラムや保育の記録を整え、定期的に確認する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4	
	目標・ねらいを明確にして保育する(日案・週案・日案・年間計画等や記録の充実) 子どもは幼稚園で自分の存在を認められている。	・冒険の森に興味を持ったり、遊ぶきっかけを持てるような遊びを考え、計画する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.8	
教育環境整備	物的環境の充実(今の子どもたちに必要な遊びの提供・教材の準備・研究)	・季節や子どもの年齢、興味、育ちに合わせた教材を用意する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.2	・物的環境は各クラスに合ったもの、子どもの興味のあるものを用意することができた。学年で保育室の環境構成を工夫する、自然物を定期的に取り入れて保育に活かすこともできた。園舎増改築工事で秋からはホールがなくなり、教会を活用した。教会ならではの環境を活かした保育もできて良かった。人的環境については、自発活動中に自分の立ち位置や子どもとの距離感、関わり方を保育者一人ひとりが意識して過ごさないといけない。クラスでの活動については、一人で全員の子どもを見るという気持ちはもちつつ、個々の配慮が必要な子どもも多いので、場面によっては丁寧に接することができないこともあった。これについては課題である。
	自然環境を保育に取り入れる。	・冒険の森に興味を持ったり、遊ぶきっかけを持てるような遊びを考え、計画する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.1	
	冒険の森を活用、工夫する。	・全体のバランスを考えて職員配置をする。大人は子どものモデルだということを忘れず、表情・言動に注意する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.3	
	人的環境(保育者の人数、子どもへの関わり方)は適切か。	・保育者は自分の幼稚園という意識を常に持つ。細かいところも気にかける。元あったところに戻すことを心がける。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4	
	園内を清掃し、保育をするのにふさわしい環境に保つ。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.2	
保護者との連携 子育て支援	保育方針をわかりやすく伝える。	・クラスだより、懇談会、日々のやり取りの中で、保育のねらいや子どもの様子、成長が見られたこと等丁寧に伝える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.9	日々の子どもの様子を伝えたり、子育て相談に応じることを丁寧にしてきたことで信頼関係を築くことができた。学年でクラスだよりの発行の工夫もすることで、より子どもの様子や園や保育者の思いを伝えられた。 園舎の増改築工事の関係で未就園児ひろばの開催は第一保育期のみとなったが、予想以上の方が参加してくれた。来てくれた方には幼稚園の魅力や方針を伝えられたと思う。
	子どもの様子をわかりやすく伝えるなど、子どもについて保護者と保育者が連携して取り組む。	・話しやすい、相談しやすい雰囲気作りを心がけ、保護者の思いを大切にしながら、子どもに為に大切なことを共に考えていく。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.3	
	保護者の思いに寄り添う(保護者支援)。	・つくし親子ひろば、あそびにおいての開催。未就園児の保護者の相談に応える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.3	
	親子の遊び場を提供		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.3	
	子育てに必要な情報の発信		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.3	
組織運営 (クラスとして、全体として、他の保育者との関わり)	クラスとして、複数担任制を活かして運営する。	報告・連絡・相談を大切に。職員間の日々の何気ない会話を大切に。話しやすく相談しやすい雰囲気作りをする。保育者の個性も尊重する。お互いを認め合い、一人ひとりの持ち味を活かす。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.1	複数担任それぞれの個性を生かし、やり方や子どもへの関わり方は違っても思いは一緒だということを感じながらクラス運営をすることができた。保育者間での意見の違いも時々あるが、その都度話し合いを重ねて、それぞれの保育者の思いや個性も大切にできてきた。今後も大切にしていきたい。
	幼稚園全体で子ども理解を深め、同じ方向性で保育にあたる。	・疑問に思うことや分からないこと、保育について等、何でも一緒に考え、話し合う。幼稚園が大切にしていることを職員がしっかりと理解する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4	
	子ども一人ひとり、保育者一人ひとりの個性を生かす。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.5	
特別支援教育	インクルージョン保育を実現(共に生き 共に育つ)	・とにかくみんなで一緒に過ごし、共に楽しむ活動を考える。ありのままの姿を受け入れ、安心して園生活を過ごせるようにする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.3	個々が今何を大切にしたいと思っているのかよく見てゆったりとした気持ちで時間を過ごすことを心がけた。子どもたちの様々な思いや表現を受け止める難しさを感じるが、保育者が思うより子どもたちは自然と受け入れ合っていくことも改めて感じた。
	インクルージョン保育理解を内外に普及する。	・インクルージョンとは何かを考え、定期的に振り返る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.7	
研修	様々な研修に参加する。保育スキルの向上を目指す	・様々な研修に参加したり、本を読んだりする機会を積極的に作る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4	園内研修や対面研修、オンライン研修など様々な形の研修に参加し、良い学びとなった。自分以外の人の意見を聞くことで、新たな気づきや物の捉え方ができた。
	研修で得たことを日々の保育に活かす。	・学んだことを自分なりに保育に生かしたり、職員間でも共有、保護者へ発信できるようにする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.8	
自己研鑽	保育者として自分を磨く。	・自分の好きなことを深めたり、興味ある事に挑戦してみたりして、自分の感性を磨く。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.1	毎日元気に保育するために、適度な休暇・自己研鑽を各自考えて行うことができた。
	毎日元気で健康に過ごす為に、働き方の見直し・休暇の取り方・定時退勤を実行していく。	・無理はせず、休める時はしっかり休み、健康で元気に保育ができるようにする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4	